

京極読書新聞 <第106号>

発行日 令和2年3月18日(水)
京極町生涯学習センター湧学館



京中生にインタビュー



平成30年度第29回京極町読書感想文コンクールで入選した中学生に、読んだ本のことや学校生活についてなどをお聞きしました。今の中学生はどんな本を読んでいるのでしょうか？

井川 咲花さん 中学3年「かがみの孤城」
藤波 香花さん 中学3年「かがみの孤城」



「かがみの孤城」辻村深月／著（ポプラ社，2017）

—— 井川さんはどうしてこの「かがみの孤城」を選んだのですか。

井川 中学生なら共感できるし面白いからと、友達からすすめられました。

—— 内容を簡単に教えてください。

井川 オオカミの仮面をかぶった少女によって集められた不登校の中学生7人が、願いが叶う鍵を3月までに探すことになります。7人が鏡の中で絆を深め、成長していく物語です。

—— 今の中学生が抱えている問題が現実的に描かれていると思ったのですが。

井川 今の中学生には、両親とのけんかや先生方に相談しても解決しなかったりする悩みがあり、中学生が言葉にできない苦しさやつらさの感情描写がすばらしいと思いました。

—— 友達とのつきあい方について、どんなことをこの本から学びましたか。

井川 いろいろな人がいるなかで、お互いを理解し尊重しあっていくことが大切だと思いました。

—— この本を読んだあと、どういうことを思いましたか。

井川 悩みをたくさん抱えている中学生に、ぜひこの本を読んでほしいと思いました。

—— 最近読んだ本のなかで、おもしろかったのは何ですか。

井川 まだ途中なんですけど、「ダレン・シャン」です。

—— 今までで一番楽しい思い出は何ですか。

井川 中1の時の文化祭で音楽部の発表をしたことです。

—— 藤波さんも「かがみの孤城」を選びましたが、一番心に残っているのはどんな場面ですか。

藤波 この本のなかの謎がすべて解けて、つじつまがあう場面です。鏡のなかに呼ばれた人たちの共通点があったんですが、予想外だったのでびっくりしました。

—— 藤波さんにとって叶えたい願いは何ですか。

藤波 この本を読み始めたときは、なんでも上手にこなせるようになりたいという個人的な願いでしたが、読み終えたときは人のためになるような願いにしようと思いました。

—— この本を読んだあと、どういうことを思いましたか。

藤波 人には苦手なことや悲しいことがあるから、楽しいと思えることがあるということに気がきました。この本を読んですぐに悩みは解決しないけれど、勇気をもらった気がしました。

—— この本をどんな人たちに読んでほしいですか。

藤波 悩みを抱えている人たちにはもちろんなんですが、この本はファンタジーやミステリーなどのジャンルがまざったようなとてもおもしろい本なので、いろいろな人に読んでもらいたいです。

—— 最近読んだ本や、見たドラマのなかでおもしろかったのは何ですか。

藤波 テレビドラマの「同期のサクラ」です。

—— 今までの中学校生活で一番楽しかったことは何ですか。

藤波 特にこの行事ということはないんですが、日々の学校生活がとても楽しかったです。



古屋 凜音さん 中学3年「僕たちのプレイボール」 守 藍さん 中学3年「犬が伝えたかったこと」



—— この「僕たちのプレイボール」はどんなお話ですか。

古屋 小さな少年野球のチームが優勝をめざす話です。

—— 古屋さんはこの主人公の沙希をどう思いましたか。

古屋 気持ちがまっすぐで、明るい魅力的な女の子だと思いました。

—— 古屋さんと沙希では違いがあると思ったそうですが。

古屋 沙希は自分から人に近付いていって仲良くなるんですが、私はそういうことが苦手だと思いました。

—— この本ではどんな言葉が心に残りましたか。

古屋 普段男の子に混じって野球をしている沙希が「私ね、女の子でよかったって今日初めて思ったよ」という

言葉です。私もいつかそう思えるようになりたいです。

—— この本を読み終えた後、どういうことを感じましたか。

古屋 私自身文字を読むのが苦手なのですが、二、三回読んでいくうちに話が深く読めるようになってうれしく思いました。

—— 最近読んだ本や、見たドラマのなかで面白かったのは何ですか。

古屋 ネットで見た「大奥」というドラマです。歴史ものなのですがわかりやすかったです。

—— 中学校生活で一番楽しかったことは何ですか。

古屋 普段の学校での生活です。

- 守さんはどうしてこの「犬が伝えなかったこと」を選んだのですか。
- 守 私は家でフレンチブルドッグを飼っています。犬が好きで選びました。
- この本はどのような内容なのですか。
- 守 家族と犬の物語が20書いてあります。
- その中で特に心に残ったのはどんなお話ですか。
- 守 チワワとスマホばかり使っていた女性の話です。愛犬の写真をSNSに投稿して満足していたんですが、写真によせられたコメントで、初めて自分の犬の目が悪いことに気がつきました。
- その他に印象に残った言葉があるそうですが。
- 守 「自分を受け入れてくれる存在がたった一人でもいい」という言葉です。犬にとってそういう存在の人がいることが心強いんだと思います。
- 作者はこの本をとおして何を伝えなかったと思いますか。
- 守 犬の行動には一つ一つ意味があって、飼い主がそれに気づいて犬を大切にしてほしいということだと思います。
- 最近読んだ本や、見たドラマのなかで面白かったのは何ですか。
- 守 元は日本のドラマで、韓国でリメイクされた「空から降る一億の星」です。初めは不思議な感じでしたが、最後はすっかりとつながって面白かったです。
- 中学校生活で一番楽しかったことは何ですか。
- 守 3年の体育大会で走り高跳びや学年対抗リレーに出たことです。リレーでは圧倒的に勝ちました。
- インタビューにご協力いただきまして、ありがとうございました。

「僕たちのプレイボール」 鬼塚忠／編著（幻冬舎，2010）
 「犬が伝えなかったこと」 三浦健太／編著（サンクチュアリ出版，2017）

平成30年度第29回京極町読書感想文コンクールで入選した京中生へのインタビューは今号で終了です。第104号～第106号で13名のインタビューを掲載しましたが、本を選んだ理由や心に残った場面などを読んで「この本面白そう」「読んでみたいな」と思える本が見つかると思います。新年度も、みなさんがいろいろな本と出会えますように。湧学館では本選びの相談やリクエストなど、いつでもお待ちしております！

建礼門院右京大夫が見た平家の人々

——素顔の貴公子たち——(その5)

<『平家物語』を読む会> 村山 功一

(6) 資盛(すけもり)

『平家』の中の資盛に関してのまとまった章段は、巻一「殿下乗合(てんがののりあい)」だけで、他は断片的に名前が挙げられている程度です。

「殿下乗合」は当時十三歳だった資盛が鷹狩りの帰り摂政藤原基房の車と行き合い、道を譲れ譲らないという些細なことから家来同士の乱闘になります。その結果資盛側はさんざんに痛めつけられ、ほうほうのていで六波羅に逃げ帰ります。これを聞いた清盛は激怒し、後日完全武装の武士三百騎をもって基房の行列を襲い報復したという事件です。『平家』は〈これこそ平家悪行のはじめなれ〉としています。ただし、この報復劇は一門随一の人格者と讃えられていた父重盛が命じたということが真相のようです。

『愚管抄*』によれば〈～この小松内府は心ばえのたいそう正しい人であったのに、どうしたとか、父入道(清盛)に教唆されたのでもないのに、考えられないことを一度だけしている〉と、この事件に触れています。つまりこの章段は資盛自身というよりも、祖父清盛の横暴を描くことが目的であって、一貫して“奢れる者”の末路を軸とする『平家』作者が史実を曲げて描いた創作(ただし、事件そのものは史実)です。

ところで、この章段に資盛の姿は現れません。ただ、郎党たちの乱闘のすえなすすべなく逃げ帰っているのが、イメージとしては弱々しい印象を受けます。しかし、その後の章段に散見される資盛は、どちらかと言えばメンタルの弱さを感じさせる小松家(重盛の一族)にあっては、気骨ある青年武将に成長したように読み取れます。一門が都落ちする中で妻子との別れを惜しみいつまでも出発しない兄維盛の邸に弟四人を従え騎乗のまま乗りつけ、強く出発を促す姿を描かれています。その後の数々の合戦では大將軍に名を連ね、壇の浦では奮戦ののち弟有盛、従兄弟の行盛と手を取り合って海中に身を投じました。しかしながら『平家』は、資盛がそれぞれの合戦でどのように戦ったのかなど、具体的な様子は語っていません。

さて、『右京大夫集』は何度も触れたようにそのほとんど全篇が、恋人資盛への想いと追憶、そして鎮魂の祈りが綴られています。華やかで自身も輝いていた中宮徳子にお仕えした日常はまた、資盛との恋の日々と重なります。それなのに、この歌集から資盛の素顔を捉えることができません。



▲武里から維盛の文を受け取り、兄・平維盛の最期の様子を知る平資盛

*『愚管抄』

慈円(天大座主を四度務める。兄に九条兼実がいる)が著した歴史書。この文中に引用した“資盛事件”は〈巻五〉にある。



▲建礼門院が出家した長楽寺に祀られる「建礼門院徳子法尼尊像」

つまり、資盛の姿は《右京大夫》の心の中に刻みこまれているのだから、あえて書く必要がないからだと思います。実像ばかりではなく資盛という名前さえほとんど書かれていません。彼女の想いを綴る詞書や詠んだ歌を見ても〈物思はせし人〉〈海に入りし人〉〈はかなかりし人〉のように書かれているばかりです。

ではなぜこういう書き方をしたのか。自分の恋人への想い、追憶を綴るわけですからこれまたあえて書く必要がなかったのでしょうか。しかし、そればかりではないようです。歌集下巻の冒頭の長大な詞書に次のように書いています。

〈あたりなりし人も「あいなきことなり」などいふこともありて(あの方との交際を続けることはよくないことです)と忠告する人もおりました〉

つまり彼女の周辺に一門も含めて、資盛との仲に批判的な人々がいたのです。その理由はともかく、

彼女は資盛との仲を知られなくなかったのでしょうか。《右京大夫》は五年ほどで退仕しますが、その原因は資盛との仲が噂として拡がることを防ぐためと推定されています(一説には母の看病のためともいう)。そう考えると資盛の姿が浮かんでこないのも、名が書かれていないことも納得できます。ちなみに『平家』には二人のロマンスは全く描かれていません。しかし、二人の恋は一門都落ちの直前まで続いたようです。“《右京大夫》が見た資盛像”は、この歌集から捉えることはできませんでしたが、下巻冒頭の詞書でわずかに資盛の人物像を知ることができます。

都落ちを前にした慌ただしいある日、彼女を訪ねた資盛は次のように語ります。

〈～こういう騒動になった以上、わたしが亡き人の数に入るのは疑いないことです。～あなたと親しくなってから、いつの間にか長い年月を経た二人の情愛だから、わたしの亡きあと後世を弔ってください。～とにかく今はこの世に生きている自分とは思うまいと固く決心して、戦に臨む心の準備をしています。だから今後はめったに手紙も書かないが、それはあなたをおろそかに思うからではなく、すべてを断ち切らなければ決心が揺らぐからだ……〉

これは“物語”ではありません。《右京大夫》を前にして資盛自身が言った言葉なのです。そして、寿永二(1183)年の冬、資盛からの最後の手紙が届きます。それには、

〈～以前にも申したように今は死んだも同様の身とおもっているの、わたしの後世を弔ってくれ〉と書いてあったということです。

この歌集で《右京大夫》が資盛について具体的に触れているのは、わずかにこの箇所だけです。しかしここに蔵人頭(くらんどのとう)という当時の資盛の官職が明記されており、これによって私たちは彼女が深く想いを寄せる人物が資盛であると知ります。



この僅かな部分から推定される資盛の人物像は、平家の将来を悲観して入水した弟清経とも、妻子への思い断ちがたく一門から離脱してやがて那智の海に身を投じた兄維盛とも違った、潔さと確固たる覚悟を備えた“武将”資盛の姿でした。また、資盛の容姿についてももちろん《右京大夫》は何も書いていませんが、『平家』には兄維盛によく似ていた（つまり、美貌であった）と書かれています。

こうした資盛の姿は歌集に書かれなくとも、彼女の心の中に終生忘れることなく鮮明に刻まれていたのでしょう。



おわりに - 建礼門院のことなど

文治二（1186）年の晩秋、《右京大夫》は建礼門院を寂光院に訪ねます。再会した建礼門院の、別人かと思われるほどにやつれ落ちぶれた姿に、ただ涙にくれるばかりでした。その様子を、

〈今や夢昔や夢とまよはれていかに思へどうつつとぞなき（今が夢の中なのか、それともあの昔が夢だったのか、思い迷ってどう考えても現実のこととは思われない）〉と詠みました。思い悩みつつ彼女は都へ戻ります。そして後年（後鳥羽院の時）再出仕しました。史料に“七条院右京大夫”とあるのが彼女であろうと推定されています。後鳥羽院は亡き安徳帝の異母弟、七条院は後鳥羽院の生母藤原殖子です。再出仕の理由はいろいろ推測されていますが、よく分かりません。

さらに後年、藤原定家が『新勅撰和歌集』撰出に当たり彼女に資料と詠歌の提供を求めます。その時「名をどうしようか」との定家の問いに「忘れがたい昔の名、建礼門院右京大夫にしてほしい」と答えています。輝かしい青春の日々の思い出は、同時に親しく交流した平家の人々を全て失った哀しい思い出でもあります。彼女の答えには、建礼門院にお仕えしたことへの矜持（きょうじ＝プライド）と、資盛はもちろん今は亡き平家一門への鎮魂の祈りが込められているように感じました。崩れゆく“平安の雅（みやび）”を残照のように輝かせ、そして西海の彼方に消えていった平家の貴公子たちと過ごした思い出は終生忘れえない、そしてかけがえのないものだったにちがいません。

八十歳近くまで長寿を保ったという彼女のお墓は、大原寂光院の一角にあります。彼女は敬愛してやまない建礼門院と、今もともにあるのです。 <完>

【『平家』の関連章段】

資盛…「殿下乗合」、巻八「太宰府落」、巻九「三草合戦」、
巻十「三日平氏」、巻十一「能登殿最期」
建礼門院…《灌頂巻》「女院出家」「大原入」「大原御幸」
「六道沙汰」「女院死去」



画像出典 「ビジュアル源平1000人」（世界文化社，2011）
P33…建礼門院、P149…平資盛

【参考図書】 ◎印は湧学館蔵書

- ・『平家物語研究辞典』(市古貞次・編/明治書院)
- ◎『平家物語大事典』(大津雄一 他・編/東京書籍)R913,4ハイ
- ◎『平家物語作中人物辞典』(西沢正史・編/東京堂出版)R913,4ハイ
- ・鑑賞日本の古典12 『建礼門院右京大夫集』『とはすがたり』
(藤田春男・福田秀一/尚学図書)
- ・『建礼門院右京大夫集 - 全訳註』(糸賀きみ江・訳註/講談社学術文庫)
- ・『建礼門院右京大夫集 付 平家公達草紙』(久松潜一・久保田淳・校注/岩波文庫)
- ・『平家後抄(上)(下)』(角田文衛/講談社学術文庫)
- ◎『ビジュアル源平1000人』(井沢元彦・監修/世界文化社)R210,0 ビジ
- ◎『有識故実大辞典』(鈴木敬三・編/吉川弘文館) R210,01ウ
- ・『新訂 官職要解』(和田英松・所 功・校訂/講談社学術文庫)
- ・『新訂 女官通解』(浅井虎夫・所 京子・校訂/講談社学術文庫)

建礼門院右京大夫が見た平家の人々--素顔の貴公子たち-- 掲載一覧

- 第100号：(その1)～はじめに、《右京大夫》の家系、
『建礼門院右京大夫集』の特色
- 第102号：(その2)～平家一門との交流、①維盛、②重衡
- 第104号：(その3)～③重盛・宗盛、④通盛・経正・清経
- 第105号：(その4)～⑤時忠・忠度・知盛、
- 第106号：(その5)～⑥資盛、おわりに--建礼門院のことなど

京極読書新聞のバックナンバーは湧学館で配布しています。
また、湧学館ホームページにも掲載していますので、どうぞご覧ください。

発行

京極町生涯学習センター湧学館
〒044-0101 京極町字京極158番地1
TEL 0136-42-2700(代表)
FAX 0136-42-2032
E-Mail yugakukan@town-kyogoku.jp



ホームページもご覧ください
<http://lib-kyogoku.jp>

